



町長のしごとと日記

第80号

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【第2 青函トンネル構想に実現に向け・・・】

役場前の高遠小彼岸桜も五月前に満開となり、周囲の山々も日に日に緑が濃くなってきたております。

長かった冬がようやく終わり、季節は春から夏へと一日一日歩みを進めている感じがいたします。

四月二十日(水)に札幌市で渡島町村会の臨時総会が開催され、中宮前七飯町長の勇退に伴う役員選挙が行われ、松前町の石山町長が会長に選出されております。私も新たに役員として監事を任ぜられております。

また、議題の中で「第二青函トンネル構想について」が提起され、私からこれまで町の町及び第二青函トンネル構想を実現する会の経過並びに活動状況を報告し、新たに渡島総合開発期成会の要望事項として、「第二青函トンネルの建設促進について」を明記することをご理解をいただくことができました。

今後は、国及び道に対して、町及び実現する会はもとより、渡島全体の要望として積極的に活動してまいりたいと考えております。

ここ二年間は、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を制限されておりましたが、ようやく少しではありますが、一歩を歩み出した気がいたしますので、引き続き町民の皆様のご支援をお願いいたします。

四月二十九日(金)から岩部クルーズの運航が始まっており、初日と二日目は全便満席での運航となりました。

乗船された方々は、イルカとの遭遇や、岩部海岸の絶景を堪能し、福島町の自然を満喫していただくことができました。

先般、世界遺産の知床を巡る観光遊覧船において、大変痛ましい事故が発生し、子どもを含む多くの方がお亡くなりになり、未だに行

方不明者の懸命な捜索が続いております。一日も早く発見されることを祈るとともに、改めて、犠牲になられた方のご冥福をお祈りいたします。

私たちも岩部クルーズを運航しておりますが、天候により年間に運航できる回数は、約四割弱となっております。状況にあることから、お客様の安全を第一優先に、クルーズ船の運航に努めてまいります。地元の漁師さんにお話を聞きますと、津軽海峡は潮流が速く変化しやすいと伺っております。

利用者の方々に安心して、福島町の素晴らしい景色を楽しんでいただくよう、運航管理を委託している福島町まちづくり工房と、安全意識を共有の上、一年間運航してまいります。

五月三日(火)に、春の殿様街道ウォークが行われました。昨年に引き続き、関係者のみでの開催となりま

したが、当日は、日本山岳会や渡島総合振興局などの皆様方の参加をいただきました。

茶道裏千家第十五代・前家元の千玄室さんは、数え百歳を迎え、「生涯現役を生きる」を貫いております。ある雑誌のインタビューの記事で、「私は山冬枯木の花という言葉が好きなので。十二月、一月、二月の三冬、この一番寒い季節にじっと耐えて枯れ木が花を咲かせる。枯れ木であつても内に秘めた力があれば、花を咲かせることができます」と語っております。

今年の冬は雪が多く、寒さも厳しい冬でしたが、自然の草花や木々は、じっと耐えて、春の訪れとともに花を咲かせます。

私たちも自然の営みの中に生かされており、この冬を耐えた分、一年の花を咲かせられるよう頑張りたいものです。